

## 第1回地域外交に関する万国津梁会議での議論について

令和5年10月27日  
沖縄県特命推進課地域外交室

## 第1回万国津梁会議の振り返り

多様な専門性を有する委員の皆様から様々な意見が見られた。意見を大別すると、  
**①沖縄の内部・外部環境と歴史、②必要な地域外交活動、③地域外交の在り方の3つ**

1

### 沖縄の内部・外部環境と歴史

君島委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在は数百年規模の構造変動の場</li> <li>中国とインドは植民地支配の被害を簡単に忘れることはない</li> <li>グローバルサウスの台頭は必然</li> </ul>
倉科委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>海外との人的交流の多さ、県人ネットワーク</li> <li>島しょ地域としての知見・知恵</li> <li>島しょ社会・国の類似性</li> </ul>
富川委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>沖縄は歴史的に見て常に外的要因に翻弄されてきた</li> <li>ソフトパワーによって沖縄は発展している</li> <li>島しょ社会として発展する際に最も重要なものは外との関係性構築</li> </ul>
井瀧委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>沖縄ブランドを確立強化することを考える</li> </ul>
久保田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>沖縄の精神的価値を普遍的価値であるインクルーシブネスと結びつける</li> </ul>
高山委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>沖縄は450年間戦争をせず、人を思いやり平和を愛する県民性を育んできた</li> <li>平和思想の流れる社会と歴史</li> <li>沖縄の人たちの中にあるヒューマニズム</li> <li>アジア諸地域との交易ネットワーク</li> <li>歴史を背景とする反日感情を実感してきた</li> </ul>
又吉委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>琉球沖縄の歴史・文化の中には、人間的・国際的な全てを受け入れる心理（様相）を呈するものがある</li> </ul>

2

### 必要な地域外交活動

高山委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際交流・平和創造の拠点となる</li> </ul>
小松委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>各国、地方政府の交流の場となる</li> <li>国際組織の創設・加入</li> </ul>
倉科委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>途上国の課題解決に官民学で取り組み</li> <li>関係構築に繋がる国際協力</li> </ul>
久保田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の課題と結びつけた交流事業が効果的</li> <li>SNSやアルムナイを活用した沖縄ファン作り</li> </ul>
水澤委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民活動を支援し、国際交流を促進することを期待</li> <li>他国・地域の市民社会との平和に関する連携の活発化</li> </ul>
井瀧委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>沖縄経済のファン作りが必要</li> <li>トップセールスの再開にも期待する</li> </ul>
又吉委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>人間としての付き合いを実践する個人外交</li> </ul>

3

### 沖縄型地域外交のあり方

小松委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際規範を謳い、全方位外交</li> <li>バイだけではなく、マルチラテラルでの活動</li> <li>県の発展にも寄与、メリットがある</li> <li>国家外交でも民間外交でもないトラック3</li> </ul>
久保田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>信頼・共創による関係構築・発信</li> </ul>
小松委員・久保田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>政権によらない一貫性、保守・革新を越えた枠組み</li> </ul>
官澤委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>国としっかり連携し、うまく使う</li> <li>ソフトパワーを用いた地方の魅力発信で前面に立つ</li> </ul>
富川委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>国家間から漏れた交流・外交を補完</li> <li>交流、ダイアログ等幅広く外交を定義</li> <li>地域のウェルフェアを高める</li> </ul>

## また、一部の委員からは外交活動を支える体制や人材育成についての意見も頂いた

### ■ 海外事務所の強化・調査（小松委員）

- 各国の情勢調査や情報収集をするスタッフの配置
- 調査機能として地域外交に関する研究助成で研究者と連携

### ■ 地域外交の推進体制（倉科委員）

- 県庁各部門の活動が独立しており、情報の共有と共通の方針に基づき取り組む体制が必要

### ■ 県民の人材育成が必要（官澤委員）

- 中高大学生に対する留学や海外派遣でグローバル人材を育成。若い世代に対するグローバル経験の提供。

### ■ 若手公務員の交流や人材育成（久保田委員）

# 万国津梁会議の提言におけるストーリー案を2つご提示。ストーリー構成は次頁以降をご参照

## ※個別の取組等は別途整理

ストーリー案 ※整理を目的として情報量を捨象している点にご留意下さい

ストーリー案①

### 社会・文化的背景を踏まえ沖縄の強みを源泉とした、今求められる地域外交コンセプトを明確化

島しょ社会としてアジア諸地域とのネットワークを有していた沖縄では、平和、ヒューマニズムやインクルーシブネス等現代でも通底する価値観を有した社会が形成されてきた。

今でも島しょ社会として独自のソフトパワーを有しており、海外との人的交流も多く存在している。

国際情勢においては、近代の主権国家システムに翻弄されてきた歴史を受け、沖縄の位置するアジア太平洋地域も国際秩序の変容に直面している。

その中で沖縄県に求められる「外交」は国際交流の拠点として平和を創造する場となることであり、具体的には沖縄ブランドの確立による経済振興、関係構築に繋がるような国際協力や市民交流の促進が挙げられる。

地域外交とは、国家間の外交活動から漏れた交流を補完し、地域のウェルフェアを高めるものであり、幅広い活動が含まれる。

したがって、沖縄型地域外交とは、国際規範を唄い、二国間・多国間での信頼醸成を行っていくものであり、国（東京）とも連携し、ソフトパワーを活用した沖縄の魅力発信を推し進めるものである。

ストーリー案②

### 歴史を押さえ、現代の沖縄の状況を踏まえ、地域外交のあるべき姿を明確化

沖縄では独自の歴史の中で平和、ヒューマニズムやインクルーシブネス等の価値観が形成されてきた。

一方、国際社会との関わりの中では、古くから島しょ社会としてアジア諸地域と交易を通じたネットワークが形成されてきたが、近代主権国家システムにおいて沖縄戦等による痛手を負い、近年グローバルサウスの台頭を目撃している。

その中で、現代の沖縄県では、海外との人的交流や島しょ地域としての知見を活用した国際協力、沖縄の有するソフトパワーの発信が行われてきた。

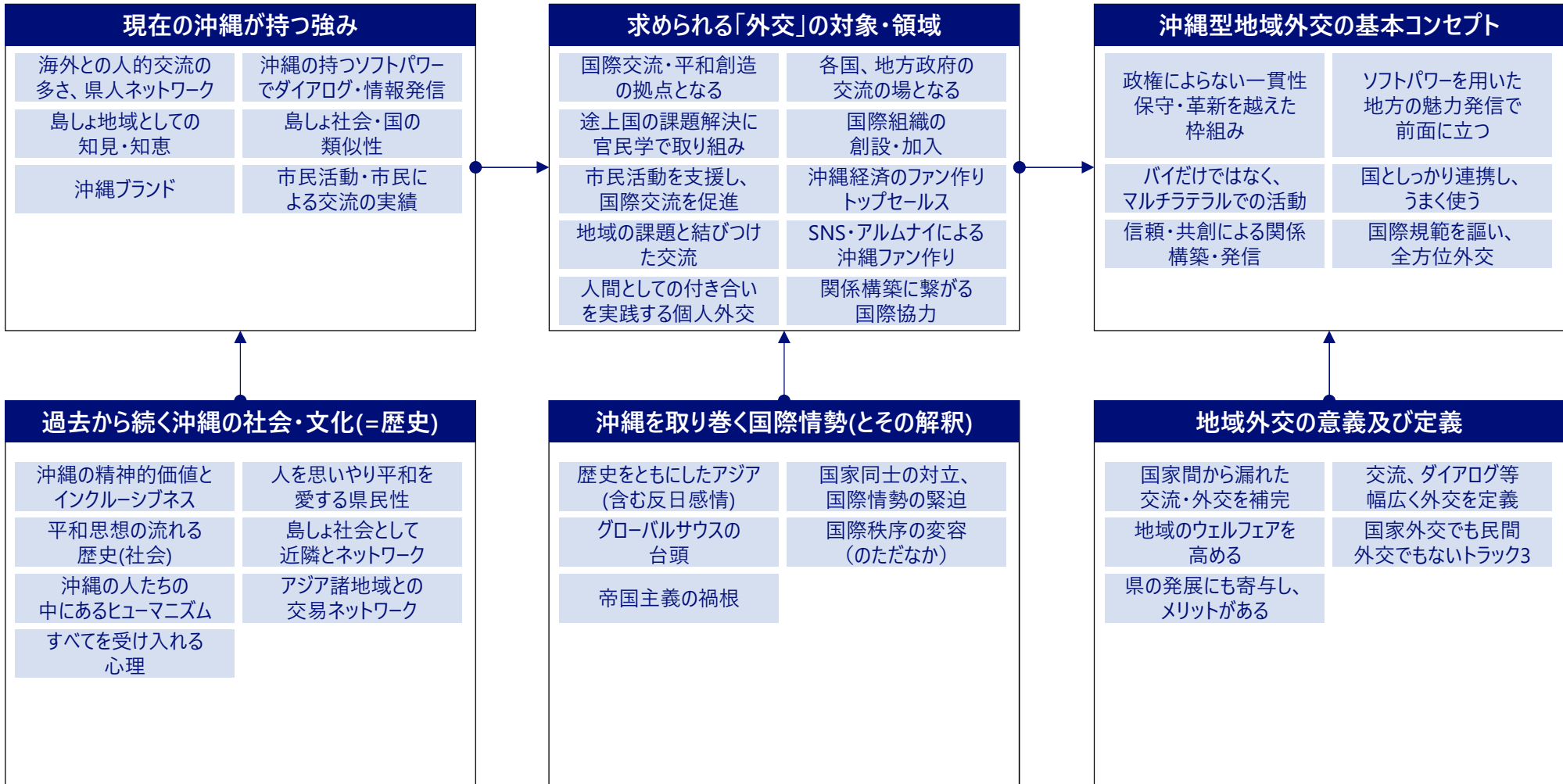
地域外交は、理論的には国家間から漏れた交流を補完するように、二国間・多国間の交流・ダイアログを推し進め、地域のウェルフェアを高めていくものである。

したがって、沖縄型地域外交のあるべき姿は、人的交流を戦略的に促進し、国際協力によって関係性を構築し、ソフトパワーを前面に立って押し出すことで経済振興に繋げ、以て沖縄を国際交流の拠点とすることで平和創造の拠点となることである。

## 第1回万国津梁会議の取りまとめ（提言書ストーリー案）

# 社会・文化的背景を踏まえた沖縄の発揮すべき強みを、現在の国際情勢の文脈に照らして求められる「外交」の対象に活かすべく、地域外交の意義を意識して基本コンセプトを明確化

ストーリー案①（社会・文化的背景を踏まえ沖縄の強みを源泉とした、今求められる地域外交コンセプトを明確化）



## 第1回万国津梁会議の取りまとめ（提言書ストーリー案）

# これまでの歴史を出発点に、沖縄を取り巻く国際社会における文脈を踏まえて、現在の沖縄の状況を押さえ、外交に関する理論的枠組みを踏まえてあるべき姿を明確化

### ストーリー案②（歴史を押さえ、現代の沖縄の状況を踏まえ、地域外交のあるべき姿を明確化）

